

【山野学区】学校再編に係る地域・保護者説明会 概要

* 分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】 2021年（令和3年）10月28日（木） 19:30～21:10

【場所】 山野中学校 体育館

【出席】 参加者 54人（地域、保護者）

行政 14人（教育長、教育次長、管理部長、学校教育部長 他）

【内容】

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 出席者自己紹介
- 4 説明
 - ・これまでの取組経過について
 - ・今後の取組について
 - ・学校再編について
- 5 意見交換
- 6 閉会

あいさつ

（教育長）

2015年（平成27年）8月に再編計画をお示ししてから、6年の年月が経ちました。この間、地域の役員や保護者の方とお話をさせていただくことや要望書等を通して皆様の思いを聴かせていただきました。

教育委員会は、多様な個性を持った友達と、一緒に学び、一緒に育つ環境を整えるため、学校再編に取り組んでおり、皆様に学校再編についてご理解いただこうとこれまで努めてまいりました。その中で、地域の皆様から「これからの地域のことを考えて話し合いをさせてほしい」という行政への強い思いがありました。その思いを受け、地域活性化を担当する部局等と教育委員会が連携し、教育環境だけでなく、将来を見据えた地域づくりと一緒に協議していくということで、御理解いただきました。

2022年度（令和4年度）としていた学校再編は、1年に限り延期し、子どもたちや保護者と一緒に、新しい学校生活に向けて準備していきます。併せて、今後の山野地域のあり方や再編後の教育機能について、地域・保護者の皆様と行政が検討するための協議の場を設置し、地域の持続・活性化に向けて取り組んでまいります。

本日は、皆様と行政が、再編後の新たな学校を作ること、地域の持続・活性化に向けて話し合いを始めること、そのスタートの会にしたいと考えています。

（山野町内会連合会 三木会長）

本来であれば、学校再編に係る話し合いも多くの住民の意見を聴きながら進めたかったところですが、私の会長就任以降、新型コロナウイルス感染症の影響で1年半が過ぎてしまいました。

私がこの学校再編について違和感を持った点は、行政が学校再編と地域活性化は別の問題である

という考えで取組を進めたことです。このような再編計画があるのであれば、まずは地域の声を聴いて欲しかったというのが一番の思いです。計画を策定した後ではなく、「このように考えているが、どのように思いますか」といった話し合いが早い時点で出来ていれば、違った形で地域と保護者が納得できたのではないかと思います。

少しでも前に進みたいという気持ちで、本日を迎えています。これから先を見据え、様々なことを行政と話し合う場ができると思いますので、引き続き、皆様の御協力をお願いします。

説明

(学校再編推進室長)

これまでの取組経過、今後の取組、学校再編について説明。

意見交換（出席者から出された意見等）

■ 学校再編について

- 再編後の地域活性化を含めて山野小・中学校の再編を進めるということだが、これまでの「学校再編と地域活性化は別問題」という考えに変更があったのか。
今後、再編計画を進める際は、地域と事前に話し合いの場を持ったうえで、取組を進めるということか。

→ (回答)

子どもたちの教育環境をより良いものにしていくことを最優先に話し合いをしたいと考え、2つの問題を分けて議論するという考えで進めてきました。これからは、山野地域の思いを踏まえ、山野町での教育機能を含めた地域づくりについて、皆さんとしっかり話し合っていこうと考えています。

また、今後の学校再編の取組にあたっては、地域・保護者の皆様にできるだけ不安な思いをさせないように、計画の示し方についても検討します。

- 学校規模を適正化することと、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育成するということは別問題だと思う。山野小・中学校でも、子どもたちは伸びやかに成長しており、他地域から山野の学校を選んでくる子どもたちもいる。

→ (回答)

地域の御支援をいただきながら、山野小・中学校の子どもたちが伸びやかに成長していることは把握しています。学校再編は、一定規模の集団の中で、子どもたちが意見を交わしながら、深く物事を考えていける環境を整えるために取り組んでいます。新しい学校においても、校長・教職員を中心に、子どもたちと一緒に教育内容の充実を図っていきます。

- 山野小・中学校の子どもたちが新しい学校に通学するようになって、しっかりと学び、遊べる環境を整えてほしい。いじめ等がないよう配慮・指導をお願いしたい。

→ (回答)

現在、山野小・中学校に在籍する児童の保護者に、一家庭ずつ面会し、子どもの様子や再編にあたっての不安、これからどういった準備をしていくかなどを話し合っています。地域からも御意見等があればいただきたいと思います。

○ 大規模校の子どもたちを、小規模校へ通学させることは考えていないのか。隣接している加茂学区の子どもたちを山野小・中学校に通学させることはできないのか。

→ (回答)

学校再編にあたっては、新しい学校の位置は、児童生徒数が多い学校が基本となります。また、山野小・中学校に通学する子どもたちを増やすことを目的に、現在の加茂学区の範囲を変えることは、地域のつながりを切ってしまうことになるため、難しいと判断しています。

○ 再編計画を出した時は想定してなかったと思うが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、学校生活が制限されるようになり、子どもたちが伸び伸びと過ごすことができない状況になっている。このような状況下で、さらに再編を進め、大規模な学校を増やしていくのか。

→ (回答)

新型コロナウイルス感染症の影響により、長い期間、子どもたちは、自分自身や友達を守り、思いやり、我慢もしながら、日々の生活を過ごしています。教育委員会としては、多様な考えを持った友だちがいて、お互いを認め合い、切磋琢磨しながら成長できる教育環境をつくるため、学校再編に取り組んでいます。引き続き、感染対策を徹底しつつ、この取組を進めていきます。

■ 福山市の教育について

○ 市全体で過疎化や農業従事者の減少が進む中、これから山野の地域活性化を考えていくにあたって、耕作放棄地の利活用は大きなポイントになると考えている。子どもたちの農作業体験等を通じて、日本の文化を大切にしていける心を学んでほしい。教育委員会が掲げる21世紀型“スキル&倫理観”の中にこのような考えがあってもよいのでは。

→ (回答)

これからの社会を生きるうえで、衣食住を含めた持続可能な社会の形成やふるさと・伝統・文化を大切にすることは大切だと考えています。そのためにも21世紀型“スキル&倫理観”に掲げる粘り強さ、ローズマインド、コミュニケーション能力等が必要です。引き続き「ふるさと学習」を通して、全教育活動の中で、それらの力を育てていきます。

○ 中学校を卒業後、受験をして高校、大学、専門学校に入るといった教育の流れが当たり前の社会になっている。これまでの教育の形を見直している国もある中で、このようなエスカレーター方式の教育で本当にいいと思っているのか。

→ (回答)

現在の教育の流れが正しいかという点については非常に難しい質問であり、明確な答えを返すことができませんが、日本でも受験制度を大きく変えようとする動きが出てきています。これまでのように、どれだけ多くのことを暗記できたか、どれだけ知識を持っているかという点を評価する点から、自分の持っている知識をどのように使っていくか、また、その知識を使いながら、どう新しい知識を手に入れていくかといった点が大切にされ始めています。教育委員会は、今後も子どもたちが主体的に学べる教育活動をめざしていきます。

○ 配付資料に小規模校のデメリットとして書かれている「意見を交わし理解を深める授業が難しい」点については、学習端末を活用することで解消できる。問題は、それができる教員がいないということなのではないか。

→ (回答)

教員は、校外・校内で研修を重ねながら、工夫し、1人1台の学習端末を活用した授業づくりに取り組んでいます。意見を交わし理解を深める授業は、学習端末の活用とともに、対面により意見を交わし合うことが重要であり、教室では両方を大事にしていく必要があります。

■ 山野地域への新たな教育機能の設置について

○ 市長部局と連携して、今後の山野地域のあり方や、再編後の教育機能について検討するための協議会を設置するということだが、結果的に教育機能を設置できなかったということのないよう、何らかの学びの場を実現することをこの場で約束してほしい。

教育委員会から校外フリースクール設置の提案をいただいているが、校外フリースクールに限らず、他の提案を複数いただきたい。

→ (回答)

山野地域の方々の思いは、これまでの話合いを通して理解しています。協議会を設置し、皆様の御意見をしっかりと聴きながら、学びの場の設置についても一緒になって考えていくことを約束します。

校外フリースクールの設置は、教育機能の一つの例として挙げているものです。その他の提案も検討しますが、地域からも提案いただきたいと思っています。

○ これまで様々な場で山野地域が伝えてきた反対の意思や要求・要望は、十分理解いただいていると思う。これまで要望してきたことに十分留意し、これからの取組を進めていただきたい。特に山野地域から強く要望してきた学びの場の設置については、市長部局と一緒に本気で考えてもらいたい。

→ (回答)

2015年度から地域の方々と何度も話をさせていただき、地域の思いは理解しています。その思いをしっかりと受けとめたうえで、市長部局とともに責任をもって取り組んでいきますので、地域の方々の御協力をお願いします。

■ 学校施設の今後について

○ 学校の校舎はどうなるのか。保育所が廃墟のように残っているが、学校も同様な形で残ると、過疎化が進んでいるという景色になってしまう。今後の計画があったら教えてほしい。

→ (回答)

小学校の校舎は、耐震性がないため、既に児童の立ち入りを禁止しており、早期に解体したいと考えています。中学校の体育館と運動場は、これからも地域活動や避難所として利用できるよう行政財産として管理し、校舎については、これから設置する協議会において、地域の活性化と併せ、話し合っていきます。

保育所については、担当課（保育施設課）に確認します。（⇒確認した内容は、次のとおり）

【保育所について】

山野保育所は、休所から14年経過し、施設も老朽化している状況ですが、現在、地域のやまの里山クラブや山野交通安全自治会などに使用許可しています。今後、施設の老朽化が進んでいく中で、その対応については、地域の方々と相談させていただきたいと考えています。

■ 新設校について

- 新設校に子どもたちと地域の方が交流する「ふれあいルーム」を整備するとあるが、山野の人がふれあいルームに行く際の交通手段はどのように考えているのか。また、新設校に継承する山野小・中学校の特色ある教育活動の例として「縄ない」があるが、これは山野小・中学校の学校規模だからこそできていた学びだと思う。これを新設校の児童に対して実践すると、準備・指導が大変になると思う。

→ (回答)

「ふれあいルーム」は、地域の方にゲストティーチャーとして授業をしていただく時の教室、子どもたち同士の交流の場となるだけでなく、地域の方同士の交流の場として使っていただきたいと思います。山野地域に子どもたちが来て、地域で学ぶ教育活動については、これから教育内容を作っていく過程で、地域の方々と相談させていただきます。交通手段については、学校と連携し対応していきます。

閉会

教育長

今日は、これからの山野地域、新たな教育機能について考えていくスタートの場とさせていただきます。地域・保護者の皆様の前を向いていこうという思い、いただいた一つ一つの意見を受けて、今後の山野地域、また新たな教育機能についてどうあるべきか、どうすることで地域が活性化していくかということをしっかりと考えて取り組んでいきたいと思えます。

引き続き、地域・保護者の皆様の御協力をお願いします。